

第36回 田善顕彰版画展

《田善賞 小学生の部》



《講評》 非常に力強さを感じる木版画の力作です。初めて彫刻刀を手にしたとは思えないほど、一彫り一彫りに心を込めて制作された様子が伝わり、深い感銘を覚えめました。刷りの仕上がりも実に見事で、作者の熱意が結実した素晴らしい作品です。

「ピーヒャラ ピーヒャラ 上手だねKちゃん」

須賀川市立西袋第一小学校 4年 久野 孝太郎

《田善賞 中学生の部》



《講評》 ドライポイントの「刷り」と「刻り」の双方が非常に丁寧で、細部まで緻密に表現されています。特に木々の枝ぶりや葉の描写には、作者独自の瑞々しい感性と魅力が感じられます。見学する人々の動静にも細やかな配慮が行き届いた、中学生らしい誠実で素晴らしい作品です。

「家族で行った思い出の場所」

須賀川市立第一中学校 1年 目黒 優那

第36回 田善顕彰版画展

《最優秀賞 小学生の部》



「写したいもの」

須賀川市立第一小学校 6年 大河原 涼未

《講評》「一版多色刷り」の技法を存分に生かした、独創性あふれる作品です。色相の選択と刷りの技術が非常に高いレベルで調和しており、学校生活の何気ない一場面を鮮やかに切り取った表現力に秀でています。

《最優秀賞 小学生の部》



「のぼりぼうに つかまって」

須賀川市立第三小学校 2年 古川 慶栄

《講評》躍動感に満ちた力強い構図が、見る者の心を強く引きつける作品です。目標に向かって懸命に「がんばっている顔」の表情が実によく捉えられており、低学年らしい伸びやかさと情熱が溢れています。

《最優秀賞 中学生の部》

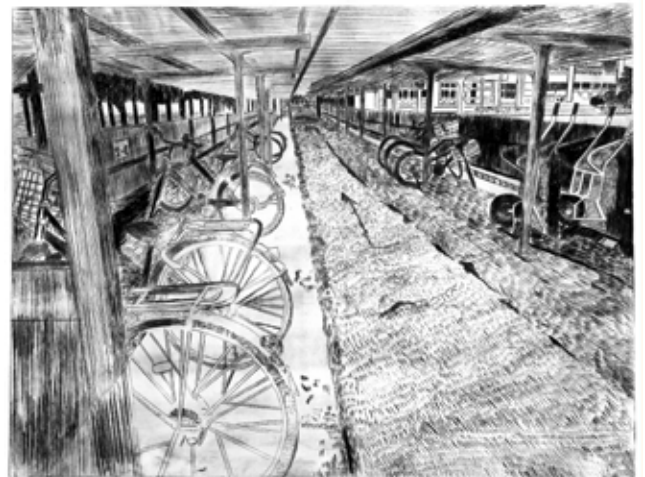


「人間のさけび」

須賀川市立長沼中学校 1年 高橋 徠絆

《講評》木版と彫刻刀の特性を最大限に引き出した、力強い表現力が光っています。彫刻刀の彫り跡（タッチ）を作品のテーマや雰囲気に合わせて巧みに使い分けており、版画ならではの魅力を情緒豊かに描き出した優れた作品です。

《最優秀賞 中学生の部》



「友達と「さようなら」をする場所」

須賀川市立岩瀬中学校 2年 山ノ内 星

《講評》学校生活の日常的な一場面を、遠近法を巧みに用いてドライポイントで表現した秀作です。繊細なニードル捌きに加え、刷りの技法にも独自の工夫が凝らされており、作者の深いこだわりと情熱が伝わる感動的な仕上がりとなっています。

第36回 田善顕彰版画展

《優秀賞 小学生の部》



「大きく育ったヘチマの実」

須賀川市立西袋第一小学校 4年 小林 優紀

《講評》丹精込めて育てたヘチマが実った喜びが、画面全体から真っ直ぐに伝わってくる温かい作品です。身近な生活体験をテーマにした点が素晴らしく、初めての木版画ゆえの「彫りすぎ」さえも、黒いヘチマの配置の妙と相まって、作品に独特の魅力を与えています。

《優秀賞 小学生の部》



「とべたよ とびばこ」

須賀川市立第三小学校 2年 猪又 虹歩

《講評》正面からではなく、あえて少し斜めに傾けた体のラインを表現することで、跳び箱を跳び越えた瞬間の躍動感が強調されています。目標を達成しようとする力強い表情も生き生きと描かれており、画面から元気な声が聞こえてきそうな作品です。

《優秀賞 小学生の部》



「不思議な国の鳥」

須賀川市立西袋第一小学校 5年 吉田 莉椰

《講評》ドラマティックな構図が目を引き、構成力の高い作品です。海と太陽の境界線を大胆に配置することで、鑑賞者の視線を自然と鳥へ誘導し、一枚の版画の中に深いストーリー性を生み出しています。細かな彫刻刀の作業にも集中力を切らず、丁寧に取り組んだ跡が伺えます。

《優秀賞 小学生の部》



「走る犬 ラッキー！」

須賀川市立小塩江小学校 6年 山口 優子

《講評》多色刷りの技法が、愛犬の生き生きとした躍動感を見事に引き出し、作品全体に力強い動きを与えています。特に、難しい黒色の表現において「黒潰れ」することなく、微妙なニュアンスを保って美しく仕上げられている点に高い技術を感じます。

第36回 田善顕彰版画展

《優秀賞 小学生の部》



「お花を見つけたよ」

須賀川市立西袋第一小学校 2年 佐久間 紬

《講評》蝶の配置と構図のバランスが絶妙です。花へと吸い寄せられていく蝶の様子が情緒豊かに表現されており、見る者にその情景を鮮明に伝えています。刷りの技術も安定しており、明暗のトーンが作品全体をキリッと引き締めています。

《優秀賞 小学生の部》



「肉と米は相性バツグン！」

須賀川市立第一小学校 4年 ロジャーズ 笑暖

《講評》大好きな「肉と米」を勢いよく頬張る瞬間が、見事に切り取られています。線を彫る向きを工夫することで、肌の質感や筋肉の動きがリアルに表現されている点も素晴らしいです。見ているこちらまでお腹が空いてくるような、美味しさと喜びに溢れた説得力のある作品です。

《優秀賞 小学生の部》



「ハピネスをひく私」

須賀川市立柏城小学校 4年 佐藤 結愛

《講評》ピアノを奏でる様子が非常に明快に描かれた好作です。白と黒のコントラストのバランスが美しく、それが主題をより一層際立たせています。指先の形やピアノの細部、髪の毛の質感に至るまで、丁寧な観察と表現が行き届いています。

《優秀賞 小学生の部》



「十二月のかにの様子」

須賀川市立長沼小学校 6年 鈴木 結愛

《講評》教科書の物語を題材に、やまなしとカニの配置をバランスよく描き出しています。絵具の効果的な使用により、光が差し込む明るい部分と水底の暗さの対比が見事に表現されています。細部に至るまで妥協のない描写には、最学年らしい技術の高さが感じられます。

第36回 田善顕彰版画展

《優秀賞 中学生の部》



「最高の友達」

須賀川市立第一中学校 2年 小林 凜華

《講評》風景の中に佇む人物が非常に生き生きと描写されています。樹木やベンチの彫りの質感、そして人物表現の細部に至るまで、丁寧な観察と工夫が感じられます。刷りも見事に成功しており、画面全体に調和が取れた素晴らしい作品です。

《優秀賞 中学生の部》



「お気に入りの景色」

須賀川市立岩瀬中学校 2年 木船 由理

《講評》学校からの景色を、遠近法や陰影法を適切に用いて描き出した安定感のある作品です。木の葉の繊細な描写からは技術の高さがうかがえます。雲の表情をはじめ、作品全体に漂う風情は亜欧堂田善の作風にも通じるものがあり、本展覧会の趣旨にふさわしい格調高い作品と言えます。

《優秀賞 中学生の部》



「豪速」

須賀川市立西袋中学校 2年 三瓶 崇人

《講評》「豪速」の名の通り、速球が放たれる瞬間のエネルギーを鮮烈に描いた傑作です。大胆な構図とドライポイントの鋭い線が、空気の震えまで感じさせます。緻密な線刻で表現された手の立体感と質感に、高い技術力が光る熱量の高い作品です。

《優秀賞 中学生の部》



「風を聞く犬」

須賀川市立小塩江中学校 1年 並木 渚

《講評》高い技術力とともに、版画制作に懸命に取り組んだ姿勢が画面から伝わり、非常に好感の持てる作品です。こちらを真っ直ぐに見据える犬の表情を素直に捉えており、題材に対する作者の温かな愛情が表現されています。

第36回 田善顕彰版画展

《優秀賞 中学生の部》



「大きな木」

須賀川市立長沼中学校 2年 氏家 綾華

《講評》下から見上げた大胆な構図や、横に大きく広がる枝の描写によって、巨木の圧倒的な存在感が伝わってきます。線刻の濃淡を使い分けることで、木のこぶの立体感や陰影を巧みに表現しており、技術的な習熟度の高さが示されています。

《優秀賞 中学生の部》

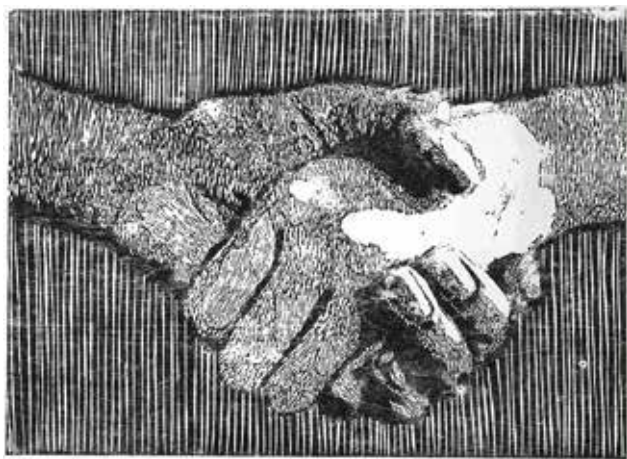


「私の靴」

須賀川市立西袋中学校 2年 安藤 穂乃香

《講評》靴の配置や色の濃淡を、遠近法を用いて的確に構成しています。陰影の絶妙な付け方によって、クッションの柔らかい質感まで表現されているのが見事です。単調になりがちなモノクロの世界を、緻密な線刻と丁寧な「拭き取り」の技法によって多彩な表情へと昇華させています。

《優秀賞 中学生の部》



「あくしゅ」

須賀川市立岩瀬中学校 1年 関根 紗帆

《講評》第一印象の力強さと、エネルギッシュなインパクトが伝わる大変魅力的な作品です。爪などの細部に至るまで徹底して手加えられており、それが表現の豊かさに繋がっています。背景の描写にさらなる工夫があれば尚良かったですが、来年以降の飛躍が非常に楽しみな逸材です。

《優秀賞 中学生の部》



「私のたからもの」

須賀川市立第一中学校 2年 小山 綸千花

《講評》大切なおもちゃに夢中で遊ぶ愛犬の、一瞬の躍動感を捉えた秀作です。ダックスフント特有の毛並みの質感や毛流れが見事に再現されており、瞳のハイライトが生命の輝きとモデルへの深い愛情を感じさせます。主題の描き込みと、あえて情報を抑えた背景の対比が、主役をより鮮明に際立たせています。